

(件名)

## 第4回 再発防止対策検証委員会の議事録（概要）

---

### 1 会議概要

- (1) 日時 令和元年12月26日（金）午前9時30分～午前10時15分
- (2) 出席者  
出席委員（3人）日詰一幸委員、内山昌美委員、辻慶典委員  
磐田市 市長、副市長、総務部長、企画部長、職員課長、契約検査課長、  
広報広聴・シティプロモーション課長、総務課長補佐、  
秘書政策課長
- (3) 報告事項  
「公契約関係競売入札妨害事件に関する報告書」について

### 2 議事録（概要）

- （委員） 報告書に掲げた再発防止対策について、職員は高い意識を持って、計画的に、徹底的に取り組まれることを期待したい。
- （委員） この再発防止対策が有効に機能して、今後不祥事が発生しないようにするためには、自分の頭で皆さんが考え続けることが大事だと思う。  
心理学で人間の根本的な帰属の誤りという傾向がある。自分に問題があったとしても、自分には問題がなく、ほかに原因があると考えられる傾向があることを知ること。人間は自分で物事を考えるのが苦手であり、苦痛を避けたいという意識が働くため、どうしても同じエラーが繰り返される。よって、自分の頭で考え、答えを出すことを常に意識して心掛けないといけない。
- （委員） 今後の取り組みがとても大事であると思う。職員の皆さんが主体的に取り組む、自身の中できちんと消化して反映していくことが大事だと思う。  
今回の反省の上に立って、不退転の決意を示していると受け止めるが、これまで検討されたことが行動に結びついていく形にしていきたい。
- （委員） 市の方向性や心意気は見てわかるのだが、負荷になってしまっているのではないかと率直に感じた。汗をかき続けることだけでなく、汗とブレーキをうまく使い分けながら安全運転をしていただいた方がよいと感じる。

(委員) 職員が違和感を持った時には議論したり、話し合うことができる風土が必要である。

報告書にある再発防止対策をつくっておしまいではなく、きちんと励行されることを心から期待したい。

(委員) 一人ひとりの職員に目配りや配慮をすること、また大切に育てていくという視点がとても大事だと思う。

提言書に書いたように権利や権限といったパワーによって職員が委縮してしまうのではなく、常に創造性を持って、自分の頭で考えて、自身の振る舞いをコントロールができる職員に一人ひとりになっていただきたい。職員一人ひとりが成長し合えるような職場環境に努めていただきたい。

(委員) 今は非常に意気込みを感じるが、人間は時間の経過とともにその熱量が下がっていくものである。熱量が下がったと感じた時には、もう一度上げるための訓示や取り組みを期待したい。幹部の皆さんが力を発揮すべきところである。

(市) 再発防止対策として、改めて行う研修等も大事であるが、毎日の職場の中に研修の場があると考えている。コミュニケーション能力が不足と言われれば、それを向上させるのも日々の仕事の中に研修や克服する機会があると思っている。

委員の皆様がおっしゃるように職員個々の意識に勝るものはないと考えている。その意識をどうやって常日頃から職場で持たせるかが最大のテーマだと思っている。

検証委員会の委員の皆様や市議会特別委員会からいただいたご提言を真摯に受けとめて、前向きに頑張って職員が胸を張れる組織体をつくっていきたいと考えている。

今回の不祥事を生かし、令和2年はしっかりとした土台をつくっていく。

(委員) 今回を合わせて4回の検証委員会で所見を述べさせていただいたが、ぜひ今後とも磐田市が県内において非常にすぐれた、また輝く自治体としてますます発展されることを心からご祈念申し上げます。